

# 廿日市市長選 激戦か

## 41年ぶり4人立候補表明

任期満了に伴う廿日市市長選（10月11日告示、18日投開票）に7日、廿日市市議の松本太郎氏（46）＝廿日市市阿品台山の手＝が立候補を表明した。4人が立候補するのは1974年の旧廿日市町長選以来41年ぶりで激戦が予想される。市選管は過去最低だった前回の投票率（36・43％）の上乗せを目指し、市民は論戦を期待する＝23面関連。

（桑原正敏）

## 投票率アップに期待も

名乗りを上げている二元市議の荻村文規氏（44）、松本氏の4人。勝山市長（71）、前副市長の川本達志氏（58）、

2011年と07年の選挙は、2回続けて同

	候補者数(人)	投票率(%)
2011年	2	36.43
07年	2	44.06
03年	2	37.16
1999年	2	42.33
95年	1	—
91年	1	—
88年	3	59.65
88年4月に市制施行		
84年	2	68.87
80年	1	—
78年	1	—
74年	4	76.20

じ候補の一騎打ちだった。41年前の町長選は、現職と新人3人が立候補。当時、政令指定都市を目指していた広島市との合併問題などが争点となり、76・20％（当日有権者数2万2202人）の高い投票率を記録した。今回の投票率について

て4人の考えはほぼ同じ。真野市長は6月の市議会一般質問で「市民の権利行使へ、5割以上は参加してもらいたい」と述べた。川本氏は「13年の市議選の投票率53・50%を上回りたい」、荻村氏は「過半数の市民が関われるよう、少なくとも50%」、松本氏は「最低でも前回から10%を上積み、50%を超えたい」とする。

市選管は期日前投票所の設置を市内の大型ショッピングセンターと協議している。フェイスブックでの情報発信も含めて投票率アップに注力する考えだ。国の推計では、40年の市の人口は約8万9千人に減り、うち4割が65歳以上と予測される。今回の選挙では人口減少や少子高齢化への対策が争点の中心となる見込みで、雇用や定任促進、子育て支援の具体策をどう訴えるかが課題となる。

市内で民間保育園を営むNPO法人・キッズNPOの吉本卓生理事長（34）は「人口を増やすには、子育て世代の労働環境の整備や団地の空き家活用などが必要。市民目線での政策を」と注文する。市老人クラブ連合会の難波督雄会長（79）は「高齢者の健康づくりで行政との協働を進めている。活発な議論を期待したい」としている。